

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成 24年10月18日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4677700116号
法人名	アール・エイチカンパニー有限会社
事業所名	高齢者グループホームゆうとみい
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本2547-1 (電話) 0994-28-1755
自己評価作成日	平成24年8月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点
<ul style="list-style-type: none"><li>・施設の開放(施設訪問者の受け入れ)(個人情報を守る範囲で)</li><li>・職員の研修(利用者が置き去りにされないケアの向上を目指す)</li><li>・救命士研修者を増やしていきたい(地域の為にも役立てていただきたい)</li><li>・入居者の家族訪問(特に一人残された家族)(入居に関係ない気になる方)</li></ul>

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年9月26日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旧根占町の田園風景が広がる自然豊かな地に建てられているグループホームである。地域的にも高齢者が多くホームでも見守りや介護相談に応じる体制を築き、緊急時も救命士4名を確保して「市民救命士のいる事業所」として南大隅町からの指定を受けて地域密着型サービスの力を地域に活かしている。また、地域と合同で夏祭りも行っており、利用者も浴衣を着て踊りが飛び出すなど家族や地域の方々との交流を深めている。ホーム周辺の草はらいや避難訓練にも毎回多数の方々の参加があり、地域の理解と協力が得られまさに地域に溶け込んだ運営がなされている事業所である。</p> <p>開設して8年が経ち、利用者の重度化は現実問題で、日常の会話でも本人から「ここで最期まで」との声が聞かれることもあり、本人・家族の思いに応えられるように関係者とともにチームで看取り支援に取り組んでいる。排せつについても個人の尊厳を重んじて日中のおむつとポータブルの使用はしない方針で可能な限り布パンツで過ごしてもらい、トイレでの排せつを支援している。入居後に改善された利用者も多く、本人の自信や職員のやりがいに繋がっている。認知症ケア専門士3名、介護福祉士4名、ケアマネージャー2名を確保し、夜間も管理者が常駐して、夜勤者2名の計3名体制で安全強化と質の高いサービスの提供に繋げている。また、同系列の医療機関とも24時間連携が図られており、緊急時の体制も整っている。代表者は職員が働きやすい職場環境・条件の整備に努め、不安なく精神的に余裕を持って働ける施設作りを目指している。ほぼすべての職員が活き活きと働けているとの職員の自己評価もあり、職員が楽しみながら利用者との日々を過ごしていることが伺われる。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念がかざりにならないよう実践につなげていく努力をしている。	「地域の中で残された力を生かし自分らしくゆっくりそしてのんびりと不安のない生活を送れる事を目標にします」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、ケアの基本として職員は実践に繋げている。理念は玄関とホールの職員が目につきやすい場所に掲示し、パンフレット・重要事項説明書にも明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加も7～8年になりボランティアでの草取り、収穫品の差し入れ施設の避難訓練への参加と年々繋がりが強くなっている。	地域との繋がりは密で「市民救命士のいる事業所」として緊急時の対応にも応じられる体制を築いている。地域からの相談も多く、職員が訪問して見守りや安否確認を行い、ときには、管理者が地域の集会でも相談に応じるなど事業所の力を地域に活かしている。また、夏祭りも地域と合同で行うなどホームが発信地となっても取り組んでいる。保育園児との交流もあり、利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症専門士2名認知症上級専門士1名は自宅介護者の認知症への係わりの相談にのれるよう地域の人々に向けて支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者へのサービスの実践などの報告、今取り組んでいる内容の中間報告、また参加者の質問への回答増えてきた発言についての実践に向け取り組んでいる。	運営推進会議は2カ月に1回、自治会長・商工会婦人部・民生委員・駐在所員・家族・行政等の幅広い参加者を得て定期的開催している。地域全体の災害時の対策や地域の問題点なども話し合われており、毎回、充実した内容の会議となっている。	

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見交換を通じて最近町主催の研修が増えてきたことは喜ばしい事でありまわりの施設の顔も見えてきたこれ以上の協力を望んでいる。	「市民救命士のいる事業所」としての指定も受けており、独居の高齢者の見守りや相談など行政と協働して取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症施設での拘束のない日常は危険が多いのはいうまでもない職員には出きるだけ解りやすい説明で拘束か拘束でないか実践を通してケアに取り組んでいる。	日常の業務の中で、職員全員が拘束について正しく理解できるようにその都度、根拠を説明し、周知徹底して身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を送れるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない施設は当たり前だと思っているが言葉など気がつかないところでの虐待が見過ごされる事のないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修では充分勉強しているが現在活用している利用者がいない為理解しづらい分支援していきたい。		

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設での暮らしに不安がないよう家族には入所時十分に説明し理解できるまで説明している、また退所の場合居宅での生活を支えるため担当ケアマネと連絡を取っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が施設で生活するのに対し出来る限り本人そして家族の想いが職員にも伝わるよう、そして家族の意見が運営に反映されるよう努力している。	年2回家族会を行っており、毎回半数以上の参加が得られている。また、なかなか面会にこられない家族もいるが、最低月1回は面会が持てるように支払いを窓口持参にし、職員とも話をする機会を設けて気軽に意見・要望を表してもらえような関係作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場での出来事はケアマネを通して全て管理者そして代表が聞きなるべくそれに答えられるようにしている。	毎朝のミーティング時に意見交換や話し合いを行っている。ケアについての工夫や提案も活発に出てサービスの質の向上に生かされている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力が無にならないよう気をつけている福利厚生にも気を配り働く者に希望を与えられるような施設になりたいと思っている。		

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>田舎の施設の為参加できる研修は余り多いとは言えないが出来る限り（県外でも）必要な研修は受けれるように支援している。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同じ町内での交流に対しては町を通じてしか出来ていないが他のグループホーム(町外)の施設長による研修も行ったたりしてケアの向上の為取り組んでいる。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化で不安の起きやすい利用者に対し職員達は寄り添い安心を確保する為の関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大部分の家族は困りごと第一に利用者本人を挙げられる場合が多い、入所後は少しずつ家族の困り事が見えてくる、出来る限り耳を傾けて相談にのるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の為に初期（その時）に必要としていることへの支援を見極める事を第一としている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人とどのように向き合いどのように共同生活を送っていけるか常に考えながら過ごしている。		

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりが強くなることで家族の面会が増えて来ている介護の大変さを職員に話される事で共に本人を支えていく関係が築けていける。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の民生委員さんの家族が入居された事でより以上に面会が増え馴染みの人達の顔が利用者に明るさを投げかけてくれる。	自分の希望を表す利用者は少ないが、友人・知人の訪問は多く、訪ねやすい雰囲気配慮してなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、携帯電話を所持している利用者や本人の希望により家族や知人と電話で話ができるように支援している利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴は人を遠ざけやすいので職員が仲に入り利用者同士の関わりを深いものになるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した家族の訪問も多く時には収穫物の差し入れもあり有難い限りである、また気晴らしにコーヒーを飲みに立ち寄られる家族もある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いがどれだけ伝わって満足出来ているか計り知るのは困難な場合もあるが出来る限りその把握に努めている。	日常の会話や困難な場合は表情・言動などから把握に努め、ときには職員の言葉かけで本人の意思確認をすることもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで生活されて来た事への把握に努めながら今からの生活にかけ離れないように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の心身状態や残っている能力を把握し一人ひとりが今日一日不安のない生活が送れるよう支援している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支えあう介護職、残っている本人の残存能力、多くの意見の中で現状に即した介護計画を作成し日々の変化を見逃さないように努めている。	本人、家族の希望を取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。また、業務日誌や職員からの日々の報告で変化があれば都度見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。		

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践等個別に記録を記入し職員間での情報を共有することで介護計画に反映させ毎日の生活に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のその時々ニーズに対応し出来るだけ支援を施設だけにするのではなく家族と共に柔軟な支援に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な暮らしを楽しみながら生活できるよう出来る限りの地域資源を織り込みながら本人中心の生き方を支援していく。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携により本人或るいは家族が望むような適切な医療が受けられるよう支援している。	関連の医療機関とは24時間連携が築かれており、緊急時や定期的な医師の往診など家族の安心に繋がっている。また、歯科や他科受診については、本人・家族の状況に応じてホームから同行するなど柔軟に支援している。		

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態把握に努め看護職員との連携を密にして適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時の密の面会で本人が安心して治療出来るよう支援している、また退院後も病院関係者との情報交換も密にし関係づくりを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合終末期の在り方については十分に家族と話し合いを行い事業所でどこまでできるか説明をしながら看取りも支援している。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時にホームの方針を説明している。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医の指示のもと、家族と話し合い、方向性を決めている。日常の会話で利用者から「ここで最期まで」との希望が聞かれることもあり、職員も思いに添えるように方針を共有して看取りケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士が現在4名勤務しているが今後全ての職員に救命士の研修を受けさせたいと考えている、職場には緊急時マニュアルを備え全職員が対応できるよう研修を密にして行きたい。			

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災・水害を想定して避難訓練を夜間を通して全職員が身につけ地域の方々にも参加していただき協力体制を築いている。</p>	<p>年2回夜間想定で避難訓練を行っている。毎回、多数の地域の方々の参加が得られており、自動通報装置にも登録されている。以前、夜間に非常アラームの誤作動により消防車が出動したことがあり、夜間にも関わらず近隣の方々が多数駆け付けてくれ、改めて地域との協力体制が築かれていることが確認できた。火災報知機、自動通報システム、スプリンクラーは設置済みである。防火管理資格者4名を確保し、管理者がホームに常駐して夜間も3名体制で安全強化に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシー保護に努め利用者本人をケア対象者と思わず人生の先輩として尊重することを心がけるようにしている。	人生の先輩として敬う気持ちを持ちながら本人がわかりやすいように呼び名や方言など個々に応じて対応している。また、日常の業務でも気づいたら都度注意し合って、職員の資質の向上に繋げている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活環境の中で本人の思いや自分なりの意見が出せるような雰囲気作りをし自己決定に向け働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の時間・自分の場所を持たれる方も多く(時間外の食事・突然の入浴要望・突然踊りだされたり)それぞれがそれぞれにその日を過ごされている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	プロの理容師による散髪、自分なりの衣服選び(夏に冬服・4, 5枚の厚さ等季節に合わない選び方)鏡を見て髪解き時々乳液を使われる方も男性の入居は大歓迎			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今できる能力で食事の準備への参加(玉ねぎむき、ジャガイモの皮むき、つわむき、竹のこの皮むき)等、昔取ったきねづかでもとても上手である。食べたもののかたづけは車いす運びである。	身体的になかなか外食に出られなくなり、ホーム内での食事が中心ではあるが、遠足や夏祭りには職員の手作り弁当で「食」を楽しみ、日常の食事もときには気分を変えて出前を取ったり、季節のいい時期はテラスでお茶や食事を楽しむなど趣向を凝らしている。誕生日のケーキ・プリン・水羊羹や日常の飲み物もコーヒー、ジュースなど利用者の嗜好に合わせて準備している。		

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合った食事量、水分量については24時間を通して管理している、栄養バランスも考えながら食事形態を各自に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは一番大事な事と考えている自分の能力に応じてケアをしていただいたり足りない分に対する支援を行って(冷たい綿棒による舌への刺激等)		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツによる利用者もいるが当施設では出来る限りトイレ誘導を実践し気持ちのよい排泄を心がけている。	個人の尊厳、衛生面、危険防止の観点から日中のおむつ・ポータブルトイレの使用はしない方針である。個々の排せつパターンを把握するため、排せつチェック表を工夫して日中は布パンツで過ごしてもらい、トイレでの排せつを支援している。自立している利用者もおり、継続できるように支援している。また、入居後に改善された利用者も多く、本人の自信や職員のやりがいに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にはその原因の元は色々あるので一概には言えないがなるべく薬に頼らず食事、牛乳、繊維の多い野菜等で対処している。		

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日のはっきりした決まりはないが本人の体調に合わせて自分のユニットで入れない時は他のユニットで入浴出来るよう支援している。	基本は週2～3回ではあるが、利用者の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前にはそれぞれの生活がありそれぞれの過ごし方があったはずである、一人ひとりが自分のスタイルでのんびりと過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	手渡しで確実に飲んで頂いている、職員は目的、用法等自分で確認できるよう現場に処方された説明書が置いてある。症状変化、薬の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の果物や野菜を食卓に乗せることで目で楽しんだり食べて楽しんだりと生活にメリハリをつけたり好きな食べ物を料理したり他のユニットでお茶したりおしゃべりを楽しまれたり。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度の軽い利用者が多い時は外食によく出かけたが今は車酔いをされる方が多く余り長時間車に揺られることが出来ず近場で桜の花見紫陽花の花見コスモスの花見等ピクニックに行く、元気な人はスーパーへ行ったりお墓参りや自宅の近くにも。	以前と比べ身体状況によりなかなか外出が出来ない利用者も多くなってはいるが、比較的元気な利用者や外出好きな利用者には散歩や買い物同行などで個別支援を行っている。また、季節の花見(桜・藤・紫陽花)は全員で出かけて季節を感じられるように支援している。	

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が出来る人はとても少ないが散髪を支払い、時々衣類の購入等お手伝いしている少しだが自分でサイフにお金を入れている人もいるがほとんど利用することはない。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族から贈り物が届いた時等なんとか字の書ける方はハガキを出してもらい書けない人は難聴の人でも家族にたのんで大きな声で話してもらったりしている心は通じているようである。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を花瓶に飾ったりそれぞれが好きな所で好きな事をされている、テレビを見たり部屋のかたづけをしたり（かたずくより散らかることも）おしゃべりしたり、自分で好きに過ごされている。</p>	<p>木のぬくもりが随所に感じられる共用空間である。広々とした造りでリビングから直接ウッドデッキに出ることができるので明るく、開放感がある。台所もオープンで食事の準備やにおいなどで五感を刺激してくれる。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>皆さん自分の部屋よりリビングで過ごされている時間の方が多くようである自分のお昼寝の場所が決まっていたりソファの座る場所が決まっていたり自分の居場所は時々で変わることもあるから皆自由である。</p>			

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各自の部屋は年数が経つ程物が増えるが年数が経つ程認知症が進み自分の持ち物を忘れられるそして自分の部屋を間違えられるそうゆう部屋は環境整備に注意し事故防止に努めている。</p>	<p>フローリングにベッドが基本ではあるが、身体状況やこれまでの生活パターンにより臨機応変に対応している。ラジオ、家族の写真、お気に入りの飾り物などで居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>環境づくりは人それぞれだが車イスの方の目線で考えている、職員ではなく自分で自駆動を出来る限り実行している、出来ることには手を出さない、自分で出来る喜びを感じていただけるよう支援していく。</p>		

**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームゆうとみい 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない